

環境経営の推進

持続可能な社会の実現を目指しー最高環境管理統括者挨拶ー



最高環境管理統括者
(常務執行役員)
成松 郁廣

持続可能な社会の実現には、地球温暖化の防止、環境負荷の低減、生物多様性の保全などの社会的課題を解決し、その状態を維持していかなければなりません。この課題の解決に向けて、当社では1999年に「環境憲章」を制定し、当社グループが共有すべき価値観、環境経営活動の原則並びに構成員一人ひとりの日々の行動に求められる指針を定めています。

当社グループでは、具体的な施策を計画する際の道標として、長期環境ビジョンを策定しています。2010年に策定した「環境ビジョン2020」の目標年度が目前となり、このたび、世界の動きをにらんだ超長期的な当社のあるべき姿を、「Kawasaki地球環境ビジョン2050」として策定しました。「CO₂ FREE」、「Waste FREE」、「Harm FREE」の3つの主要項目のゼロ化をめざしながら、目標を具現化した環境経営活動基本計画を着実に達成していきます。

さて、このたび発行する「Kawasaki環境報告書2017」では、「環境ビジョン2020」を指針に策定した第9次環境経営活動基本計画(3か年)の初年度にあたる2016年度の環境経営活動の成果をまとめています。

2016年度は、資源・エネルギーコストについては目標の5%を上回る7%削減を達成しました。これには製造現場における「エネルギー見える化システム」の導入による省エネ活動の継続、ムダ・ムラの排除や設備の高効率化、電力自由化への積極的な対応が大きく寄与しています。一方で、CO₂排出量(原単位)の3%削減については未達成となりましたが、新規設備の立ち上げ等の影響によるもので、2017年度以降は達成できる見込みです。また、4年目を迎える、環境性能に特に優れた製品を評価・登録する「Kawasakiグリーン製品」制度も広く社内に浸透し、2017年時点での登録、全41製品が世界中で環境負荷低減に貢献しています。

当社は事業活動およびその製品両方を通じて、地球環境の保全・向上に貢献し、持続可能な未来社会の形成に向けて関係各所と協働してまいります。読者のみなさまにおかれましては、この報告書を通じて、当社グループの環境経営へのご理解を深めていただければ幸いです。

環境憲章【1999年制定(2010年改定)】

環境基本理念

川崎重工グループは「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与することを基本に据え、「陸・海・空にわたる基礎産業企業」としてグローバルに事業を展開する中で、地球環境問題の解決を図るため、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」および「自然共生社会の実現」を目指し、環境に調和した事業活動と地球環境に配慮した自社製品・サービスを通じて、社会の「持続可能な発展」に貢献します。

行動指針

- 地球環境問題は、人類共通の重要課題と自覚し、環境との調和を経営の最重要課題の一つとして、自主的・積極的にグローバルに取り組む。
- 生産活動において、省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物の削減に取り組み、環境への負荷の低減を推進する。
- 製品企画、研究開発、設計段階において、資材の購入、製造、流通、使用、廃棄の各段階での環境負荷をできる限り低減するよう配慮する。
- 事業活動による生態系への影響の最小化を図るとともに、生態系の保全に積極的に取り組む。
- 地球環境問題解決のために環境保全、省エネルギー、省資源に有効な新技術・新製品を開発し、社会に提供する。
- 環境関連の法律、規則、協定および関連業界の自主行動計画等を遵守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、一層の環境管理レベルの向上に努める。
- 環境教育・広報活動を通じ、全従業員の地球環境問題への意識の高揚を図り、一人ひとりがライフサイクルの見直しや社会貢献活動への参加を促進する。
- 環境保全活動に関する環境マネジメントシステムを構築し、定期的に環境保全に関する会議を開催し、見直しを行い、環境保全活動の継続的改善を図る。

環境経営の基盤

当社では、全社環境経営活動を統括管理し、環境問題に関する一切の責任と権限を有する「最高環境管理統括者(環境管理担当役員)」を選任のうえ、全社の環境管理体制を構築しています。(図1:環境管理組織図)

そして、環境経営活動の継続的改善を図るため、最高環境管理統括者を議長とする地球環境会議において、具体的な手順、実施方法等運用に関する審議や決定を行います。

同様に、省エネ法の定めるところにより、最高環境管理

統括者が「エネルギー管理統括者」に就き、エネルギー管理体制を構築しています。(図2:エネルギー管理組織図)

省エネルギー活動は、全社エネルギー管理会議等会議体を定期的で開催し、事業規模に応じて積極的に展開しています。

当社は、1994年から環境管理体制の整備・確立に向けた取り組みを行ってきており、将来ビジョンを見定め、実現に向けて着実にステップアップしています。

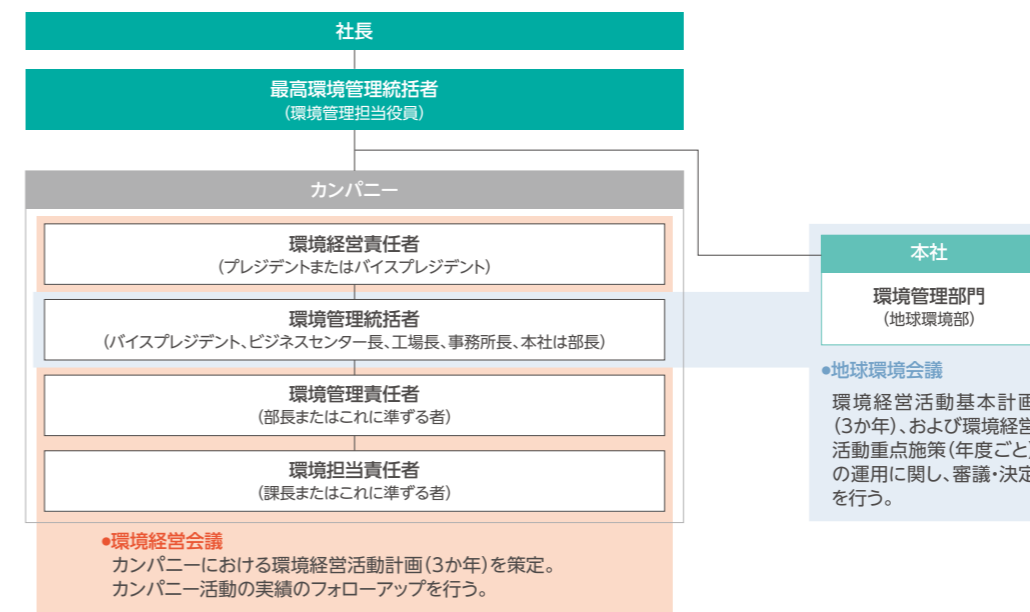


図1: 環境管理組織図

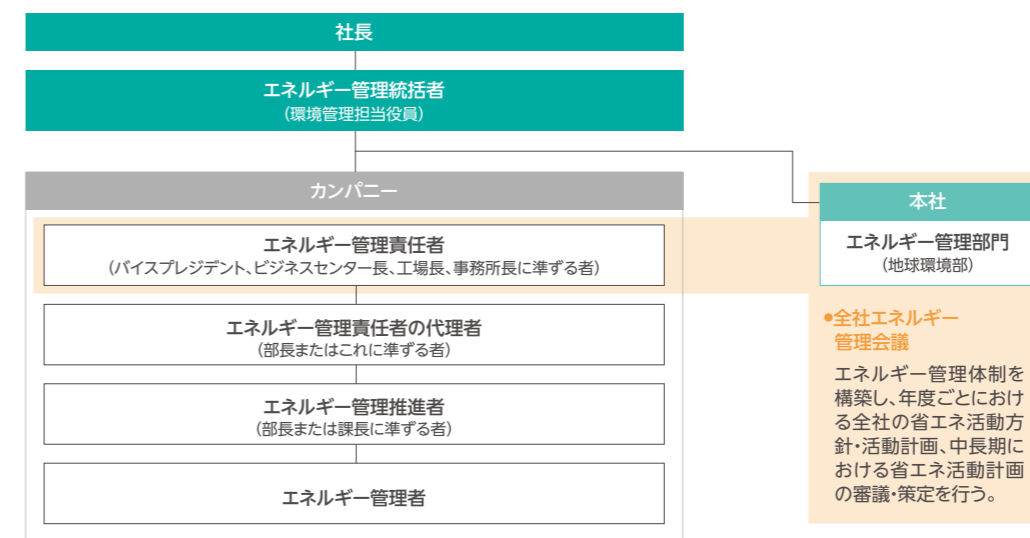


図2: エネルギー管理組織図

Kawasaki地球環境ビジョン2050の策定

川崎重工グループは、地球温暖化の抑制に向けて発効されたパリ協定や、国連により採択された持続可能な開発目標 (SDGs) を受け、将来の持続可能な社会の実現に協働して取り組むことを宣言し、「Kawasaki地球環境ビジョン2050」を策定しました。

「CO₂ FREE」、「Waste FREE」、「Harm FREE」の3つのビジョンを基本に環境経営を具現化し、2050年に向けて地球温暖化の抑制、循環型社会の推進、生物多様性の保全に貢献していきます。



2050 Kawasaki Challenge!

※活動マーク:「将来への手紙」をイメージして、3つのチャレンジをデザイン

CO₂ FREE

- 事業活動でのCO₂排出0(ゼロ)をめざしていく
- CO₂排出を大きく抑制する製品・サービスを提供する

Waste FREE

- 事業活動での廃棄物0(ゼロ)をめざしていく
- 水資源の保全・リサイクルを徹底する

Harm FREE

- 事業活動での有害化学物質排出0(ゼロ)をめざしていく
- 生物多様性を尊重した事業展開を行う

環境経営への取り組み

当社は環境経営への取り組みとして、1994年に第1次環境経営活動基本計画を策定し、全社一丸となって環境保全活動をスタートさせました。その後、1999年に「環境憲章」を制定し、社内外に当社の環境への取り組み姿勢を示すとともに、長期ビジョンとして2003年には「環境ビジョン2010」、2010年には「環境ビジョン2020」を策定してきました。これらに基づいて具体的な環境経営活動計画を立て、着実に実行しています。

そしてこのたび、「環境ビジョン2020」の実現を目前に控え、事業活動による環境負荷ゼロに加えて、製品・サービスによる地球環境への大きな貢献を目指していく、新たな「Kawasaki地球環境ビジョン2050」を策定しました。当社は常に時代を先取りしたビジョンに向けた着実な環境経営活動を通じ、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」の実現に向けて前進していきます。

